

令和8年度 小樽市立手宮中央小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

昨年度の標準学力調査(2～5年)では、標準スコアで見ると国語については3年生を除き昨年度より向上しているが、算数では全学年で昨年度よりスコアを落としている。

また、算数では学年によって達成率の差が大きく、達成率の低い学年は、前学年での基本的な学習内容を定着させずに進級した低位の児童が多く存在していることが考えられる。

昨年度末の改善プラン検証では、音読において全学年で8割以上が定着目標を上回り、漢字の書き取りも半数の学年で定着目標を上回ることができた。しかし、残りの半数の学年では達成率が6割程度にとどまり、低位の児童が多く存在する傾向が見られた。

このことから、特に低位の児童に対して、漢字や学年の基礎基本となる計算技術などを定着させることが必要であると言える。

2 学年ごとの定着目標(数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・つまずかずに文章を読む。
2年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・句読点に気をつけて、つまずかずに文章を読む。
3年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・句読点に気をつけて、つまずかずに文章を讀む。会話文を工夫して讀む。
4年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・句読点に気をつけて、つまずかずに文章を讀む。登場人物の心情に合わせて会話文を讀む。
5年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・聞き取りや速さで、つまずかずに文章を讀む。地の文、会話文を意識して讀む。
6年	・漢字を正確に読み、8割以上書くことができる。 ・聞き取りや速さで、つまずかずに文章を讀む。登場人物の心情を工夫して讀む。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算ができる(定着8割)。
2年	・九九全ての段を正しく言うことができる(定着8割)。
3年	・かけ算の筆算ができる(二・三位数×二位数)。 ・小数や分数のたし算、ひき算ができる(定着8割)。
4年	・わる数が2桁のわり算ができる(定着8割)。 ・小数と整数のかけ算、わり算ができる(定着8割)。
5年	・小数のかけ算、わり算ができる(定着8割)。 ・分母の異なる分数のたし算、ひき算ができる(定着8割)。
6年	・分数と整数、分数同士のかけ算、わり算ができる(定着8割)。

<学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
1年	・20分間の家庭学習と音読に取り組む児童70%以上
2年	・30分間の家庭学習と音読に取り組む児童70%以上
3年	・40分間の家庭学習、音読に取り組む児童70%以上
4年	・50分間の家庭学習、音読に取り組む児童70%以上
5年	・60分間の家庭学習、音読に取り組む児童70%以上
6年	・70分間の家庭学習、音読に取り組む児童70%以上

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①算数について、習熟度別少人数指導・TT指導の実施
- ②国語について、手宮中央小タイム(書く活動・読み取りの活動)
- ③該当学年での新出漢字を2学期までに終了させ、定着のための時間を十分に確保
- ④中・高学年における教科担任制の導入・継続
- ⑤放課後学習の取り組みや長期休業中の補充学習

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①主体的な学習へ結びつけるための単元計画や評価基準の作成と児童への周知
- ②身につけさせたい「見方・考え方」を明確にし、児童とも共有できる授業構成の工夫
- ③自己の課題や目的に応じたチーム別研修

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①宿題で、継続して何度も繰り返し行う四則計算
- ②毎日の音読とそれに対する家庭の評価
- ③家庭学習ノートの提出など、自主学習の奨励とその内容の交流
- ④各家庭でテレビ、動画視聴、ゲーム時間についてのルール作り

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R8年	
4月	・チャレンジテスト(前年度問題)の実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・家庭学習の手引き配付と保護者への説明 ・放課後学習
5月	
6月	
7月	○標準学力調査実施(第2・3・4・5学年)
	○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自校採点
	○標準学力調査結果分析
	・手宮中央小タイムの実施 ・保護者面談の実施 ・1学期のまとめ、ふりかえりの実施 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施 ・児童アンケート、保護者アンケートの実施・分析
8月	・夏季休業中の学習会
9月	○R8全国学力・学習状況調査結果分析
	・地域公開日(土曜日)、学校説明会
10月	○保護者への調査結果の説明
	○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・個人結果の説明
12月	・保護者面談の実施 ・2学期のまとめ、ふりかえりの実施 ・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施 ・児童アンケート、保護者アンケートの実施・分析 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
R9年	
1月	・冬期休業中の学習会
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施・分析 ・3学期のまとめ、ふりかえりの実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着について

- ①児童アンケートを実施し、算数の授業が楽しいと回答する児童が80%以上であれば取組の成果があったと考える。

- ②児童アンケートを実施し、国語の授業が楽しいと回答する児童が80%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ③学年末に学年で学習した漢字のまとめのテストを実施し、80点以上の児童が80%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ④児童アンケートを実施し、国語・算数の授業がわかると回答する3年以上の児童が80%以上であれば、取組の成果があったと考える。

(2) 授業改善について

- ①単元テストにおいて80点以上の得点の児童80%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ②単元テストにおいて80点以上の得点の児童80%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ③年度末に職員に研修アンケートを実施し、研修の内容や実践について理解できたと回答する職員が90%以上であれば取組の成果があったと考える

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣について

- ①毎日音読カードを提出する児童が学級70%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ②家庭学習を継続して提出する児童が、学級の70%以上であれば取組の成果があったと考える。
- ③児童への聞き取り調査を実施し、家庭でテレビ、動画視聴、ゲーム時間についてのそれを守っているという回答があれば、取組の成果があったと考える。